

3月 ちとせだより

幼保連携型認定こども園
神戸 YMCA ちとせ幼稚園

年度の最後の月になりました。寒さの中にも、陽射しには春へ向かう勢いを感じる今日この頃です。

生活発表会で子どもたちが演じたのは、「原作」はあるものの、子どもたちが教諭に助けられながら自分たちで作上げたものです。

子どもたちは絵本や物語に入り込むようにして、登場人物（人間ではないこともしばしばですが）や物語の情景を感じ取ります。何度も繰り返しているうちに物語はすっかり自分のものになって、子どもたちは主人公に、脇役に、時には悪役に、もしかしたら背景の山や木、海の波や風にもなってみたに違いありません。何にだってなれるし、同時に二役、三役だってできるのですから。そうして登場する者や物それぞれの感情を味わって「そうやなあ。」とか、「そうかなあ。」とか、色々な思いを抱いたのでしょう。

子どもたちは、教諭に導かれてそういった思いをみんなと共有しながら、元のストーリーには無かった展開を創造していったのです。みんなで一緒に楽しみながらの創造は、何にも囚われずに何処までも拡がって行きます。

発表会当日、子どもたちは衣装や大きな道具に頼らず、体と声と仲間との協力で演じて、達成感に満ちた顔で退場していきました。自分たちの中にある感情や、彼らには見えている風景を、観にきてくれた保護者の皆さんに伝えることができた、という達成感です。

観客として参加して下さった皆さんが、子どもたちの心に寄り添って、見えない舞台装飾や背景、めまぐるしく変わる子どもたちの衣装（衣装を本当に使っていたら、あれだけの早変わりは無理ですが）を「観て」、共感し、喜んで下さったことを感じて、子どもたちの達成感は一層大きくなりました。「みにきてくれて、ありがとう。」短い感想の言葉には、その気持ちが込められていたと思います。

この大きな達成感には自信に繋がります。

自信は、新しい物事に臆せず取り組み、失敗しても挫けず工夫してもう一度挑戦する、そういう意欲に繋がります。もう直ぐそこに来ている新しい年度へ、大きな自信を持って歩み出して欲しいと思います。

年主題 『平和をともに』

<年主題聖句> 「キリストは私たちの平和であります。」

(エフェソの信徒への手紙 2章 14節)

3月主題 『なかまと 心はずませて』

<聖句> 「主はわたしの光、わたしの救い、わたしは誰を恐れよう。」

(詩編 27編 1節)